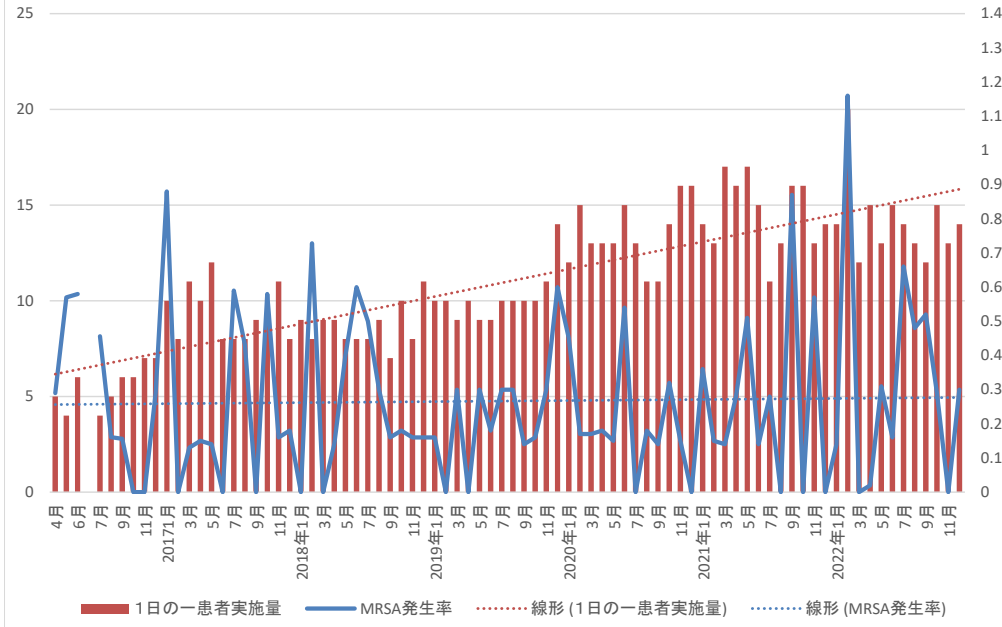


# 2022年手指消毒剤使用量推移

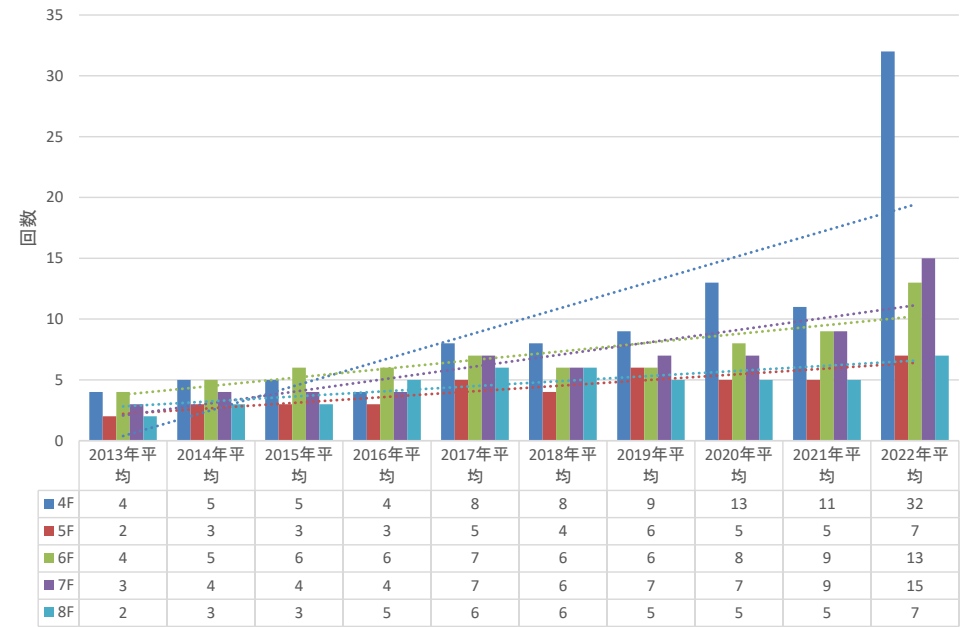
期間:2013年7月~2022年12月

2023年2月  
院内感染対策委員会

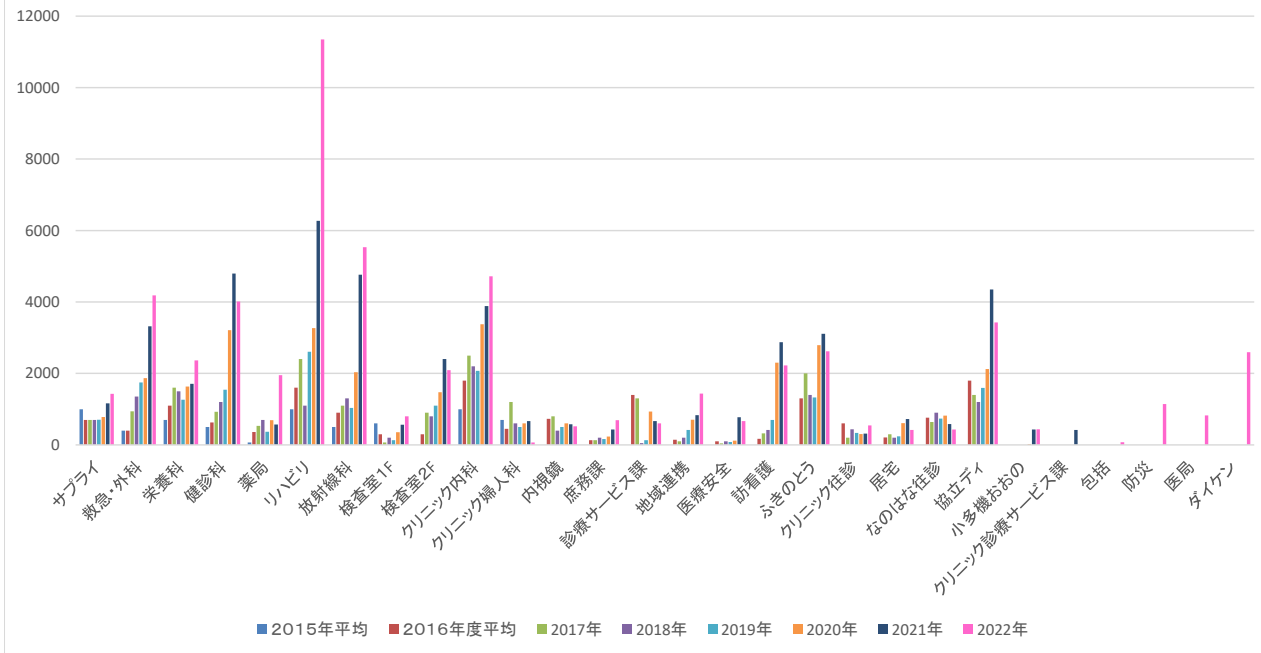
1日1患者あたりの実施回数とMRSA院内発生率



各病棟毎の1日1患者実施回数経年推移



病棟外使用量の経年推移



## 評価

- ・現在、手指アルコール使用量は、全体で平均して1日1患者17回の実施回数で、昨年より1回分上昇した。陽性者の受け入れが本格的に始まった1月、クラスターが発生した2月にMRSAの院内発生が増加。7月にもクラスターが発生し1患者ごとの手指衛生が不足していた。再入院でMRSA保持者が多い
- ・病棟の特徴としては、一般増加傾向だが回復期病棟が伸びていない。全体に回数も低い水準である。
- ・5・8F病棟ではアルコール製剤使用量が低く、耐性菌の院内発生がみられていた。必要な場面で手指消毒を実践しないと院内感染の要因となる。今後は5つの場面を各病棟の業務に当てはめて、必要な場面で手指消毒が実践できているか個別使用量も確認していく。また目標値を定め取り組んでいく。
- ・現在手指消毒液払い出し量から実際の使用量を割り出していくことを下期の目標とし取り組んだ。来年より実際の使用量で評価する。
- ・病棟外では、外来(救急外来、内視鏡など)、訪問看護での取り組みで手袋を脱いだ後の手指衛生の取り組み、個人の持参状況を積極的な委員によるすすめが出来てきて定着してきている。

全体の取り組みとしては、日常的手指衛生の徹底を呼び掛けた。今後も、WHOの5つのタイミングでの手指衛生を遵守・継続するよう働きかけていく